

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

平成 30 年度
自己評価報告書

平成 31 年 3 月 30 日

長崎リハビリテーション学院

本書の使い方

- 1 本書は平成 25 年 3 月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に示された「項目別の自己評価表(例)イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表(イメージ案)」などを参考に全体を構成しました。
また、評価項目は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。)がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」を適用しています。
- 2 従来の「評価項目別取組状況」に「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」を加えることにより、ガイドラインに示されている PDCA を活用した自己評価を進めることができるようになっています。
- 3 ガイドラインでは、「項目別の自己評価表(例)イメージ」において取組状況を 1 から 4 の評語を用いて自己評定する様式を例示しています。このことから、本書でも「評価項目別取組状況」の小項目毎に評定欄を加えました。評語の考え方の例は、以下のとおりです。但し、評定については学校ごとの考え方により実施しない学校においては評定欄を削除してお使いください。

※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

- 4 本書は、学校関係者評価を円滑に進めるために、記述のうち「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」など部分的にピックアップして評価を行うことができるように構成していますので、学校関係者評価実施においても活用できます。
- 5 本書はワード形式で作成しています。学校の考え方により適宜変更して使用してください。ご不明な点につきましては、機構事務局までお問い合わせください。

連絡先 03-3373-2914 info@hyouka.or.jp

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>・建学の精神である「奉仕」、すなわち社会において自己が支えられていることを深く認識し、支えられている自分が他を支えていることであり、そのために自己を支える力を大きくし、より良く生きるという「活私」の心を育む。</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 国際的視野に立った、高度の専門的知識、技能を習得するとともに、一般教養を深め、調和のとれた人間を育成する。2. 複雑な心身障害をもつ患者に対し、人間尊重を基調として、親しまれ信頼される情操豊かな人間を育成する。3. 自己の使命と責任を自覚し、日進月歩の医学、医療に即応でき生涯にわたって研鑽に励み、その使命を果たす意欲のある人間を育成する。

最終更新日付	平成31年 3月 30日	記載責任者	本川 哲
--------	--------------	-------	------

2 本年度の重点目標と達成計画

平成 30 年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>1. 教育力の強化</p> <p>(1) 学生の自己学習能力の強化</p> <p>(2) 教員個々の教授力強化</p> <p>2. 学院経営に対する参画強化</p> <p>(1) [学生募集] 入学者 120 名以上の確保</p> <p>(2) [国家試験合格率] 全学科 95%以上</p> <p>(3) [就職率] 希望就職率 100%</p> <p>3. 就労環境の改善・向上</p> <p>(1) 健全かつ生産性のある就労環境づくり</p>	<p>1) 基礎分野の学力向上</p> <p>①「向陽学園閲覧システム」や「スマホ対応の国家試験対策システム」の更なる活用向上</p> <p>②基礎専門分野の集中補習等の実施</p> <p>③頻回の試験実施</p> <p>2) 階層別学習支援</p> <p>①年間を通しての「学科会議」や「国家試験対策委員会会議」の学生評価に伴う教員担当制指導の徹底</p> <p>②学生相談窓口や養護教員等の情報に基づく学生個々の教育環境整備</p> <p>1) 職業実践専門課程認定にむけての取り組み</p> <p>①「自己評価」の精度向上と PDCA サイクルに基づく工夫改善</p> <p>2)「養成校指定規則」改正（2020 年度入学者より適用）にむけての取り組み</p> <p>①カリキュラムの検討や臨床実習の方法ならびに評価等の検討</p> <p>3) 積極的な学内研修会等の実施</p> <p>①「キャリア教育」の全学的実施のための勉強会等</p> <p>4) 成績評価力の向上</p> <p>①学生個々の成績評価の精度向上ならびに予測合格率と国家試験合格率の整合性の担保</p> <p>1) 作業・言語療法学科で 30 名、二部で 20 名の入学者確保にむけた取り組み</p> <p>①目的やターゲットに伴う広報媒体や内容等の検討および活動実施</p> <p>②学科で 10 名を担保する独自の広報活動実施</p> <p>③向陽高校との連携強化ならびに同窓会への働きかけ</p> <p>1) 国家試験対策委員会主導による対策の強化（4 月から取り組む）</p> <p>①模擬試験の実施回数の増加に伴う学生個々の成績把握ならびに経験値向上</p> <p>②学生個々の成績評価の精度向上ならびに予測合格率の整合性の担保</p> <p>③スマホ対応の国家試験対策教材の更なる活用向上</p> <p>1) 県内ならびに近県病院・施設の求人数増加</p> <p>①就職説明会実施</p> <p>②県内の病院・施設への求人確認ならびに依頼</p> <p>③同窓会への働きかけ</p> <p>2) 就職に勝てる力の養成</p> <p>①「キャリア教育」の全学的導入の推進ならびに「コミュニケーション能力」等の向上推進</p> <p>1) 勤怠管理の徹底とそれに伴う振替休日消化の促進</p> <p>①「部署別勤務一覧」ならびに「時間外勤務振替簿」による勤怠管理の徹底</p> <p>②定時帰宅の推奨（ただし、繁忙期を除く。）</p> <p>2) 向陽学園こころの健康づくり計画に準じた学院の対策</p> <p>①研修会等への積極的な参加</p> <p>②向陽学園職員相談窓口への利用奨励</p>

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 「奉仕」は向陽学園の建学の精神である。「奉仕」の心はリハビリテーション専門職の基本的資質であり、その醸成には教育課程ならびにそれ以外の活動においても学院挙げて取り組んでいる。</p> <p>2. 各学科が文部科学省に「職業実践専門課程」として認定してもらおうべく、それぞれに3つのポリシーを掲げ、教育指導、自己評価までのPDCAサイクルに則り実践してきた。（2019年度より認定となった。）</p> <p>3. 臨床実習においては、指定規則の変更を見据えて「臨床参加型（クリニカル・クラーク・シップ）」の導入に向けて検討を始め、教員研修等を行った。</p> <p>4. 「国家試験対策委員会会議」の回数を多くし、学生の達成ならびに学科の進捗状況等を確認ならびに情報共有を行った。また、試験の難易度等にも検討を加え、学生把握の精度は向上したと考えている。</p> <p>5. 各学科に1名のキャリアサポーターを配置し、各学科で「キャリア教育」が導入できる体制づくりに努めた。PT・ST学科は既に導入し、OT学科を残すのみとなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神やポリシーに基づき、指定規則の変更（2020年度入学者から適用）に伴う教育過程の見直しならびに変更、臨床実習指導方法変更等の作業については2019年9月を期限として実施したい。 ・1年次から、学生個々に「寄り添う」教育を周知徹底し、その帰結である国家試験合格率向上に向けて「国家試験対策委員会」での審議ならびに対策を一層充実させたい。 	

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	本川 哲
--------	------------	-------	------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<ul style="list-style-type: none"> ■理念に沿った目的・育成人材像になっているか ■理念等は文書化するなど明確に定めているか ■理念等において専門分野の特性は明確になっているか ■理念等に応じた課程（学科）を設置しているか ■理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか ■理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか ■理念等の浸透度を確認しているか ■理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか 	4	<p>理念やポリシーは文書化され、その育成のために教育課程やそれ以外の活動において取り組んでいる。昨年度に引き続き職業実践専門課程認定に向け PDCA サイクルに則り実践してきた。</p> <p>指定規則改正を見据え、教育課程等について検討を始めた。</p> <p>学生・保護者、関連業界に周知している。</p>	継続する。	PDCA サイクルで進める中で適宜見直す。	教育理念・目的・目標、3つのポリシー（学院・学科）、学院案内パンフレット、学生要覧（学則）、入試要綱、リーフレット、HP、保護者だより、平成30年度経営目標（職員会議資料）、前年度総括及び次年度方針資料（広報、教育、就職）
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか ■教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか 	4	平成30年10月厚生労働省「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」の通知に基づき、教育課程や臨床実習に関する事項についてすでに検討を始めている。	2019年9月を期限として教育課程や臨床実習方法等の変更を完了させる。（2020年度入学者から適用のため）	学内や教育課程編成委員会等で審議し完成を目指す。	3つのポリシー（学院・学科）教育課程検討資料、臨床実習指導者会議資料、臨床実習巡回記録、教育課程編成委員会議事録

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<ul style="list-style-type: none"> ■専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか ■学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか ■教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか 		教育課程編成委員会や臨床実習指導者会議を開催し関連業界等の意見を反映させている。			
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> ■理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか ■特色ある職業実践教育に取り組んでいるか 	4	キャリア教育、学外実習、3 学科多職種連携授業等を通して専門性・職業教育に取り組んでいる。	継続する	早期に導入することで学生が職業のイメージを持ち学習に積極的に取り組めるように支援する。	定例会資料、運営会議議事録、教育課程検討資料、臨床実習指導者会議資料、学科長会議事録、部長会議事録
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<ul style="list-style-type: none"> ■中期的（3～5 年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか ■学校の将来構想を教職員に周知しているか ■学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか 	4	平成 30 年度作業療法学科が厚生労働省「専門実践教育訓練指定講座」に認定された。 優秀な学生確保のために平成 30 年度より特待生制度を開始した。	社会人に門戸を広げるため、指定講座の認定に向け継続的に取り組む。 特待生制度を周知する。	特待生制度を入学後の学習意欲さらに学力向上に活用する。	定例会資料、運営会議議事録、学科長会議事録、部長会議事録、職員会議資料、保護者だより、学生募集要項、HP

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国や社会のニーズを踏まえ、将来構想をもって取り組んでいる。	職業実践専門課程の認定（平成 31 年 3 月通知）を受けた。「PT・OT 養成施設指導ガイドライン」に基づき教育課程の検討を始めた。OT 学科「専門実践教育訓練指定講座」の認定を受けた。特待生制度を開始した。

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	井戸 佳子
--------	------------------	-------	-------

基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 今年度も「学院経営に対する参画強化」を目標に掲げ、入口の「学生募集」、中間の「学生教育・指導」、出口の「就職」までの数値目標達成に向けて、学院挙げて取り組んだ。結果、「学生募集」や「就職」については目標達成できた。また、国家試験対策委員会や学科長会が機能してきており、国家試験対策と併行して休学や中途退学者の減少につながった。</p> <p>2. 「学院運営規定」に則り、定例の会議および職務を遂行した。</p> <p>（1）職員会議や学科長会会議、部長会会議については、基本月 1 回実施した。</p> <p>（2）運営会議については、基本週 1 回実施した。</p> <p>3. 向陽学園本部とは、基本週 1 回の定例会の場で報告ならびに企画等の提案等を行い、決裁ならびに指導を得る等、連携強化に努めている。</p>	<p>・年度の目標や具体的方策等に加え、より具体的な数値目標を掲げて取り組んだ。それについては前期終了時の中間総括ならびに年度末の最終総括としてまとめている。その中で課題となった「学生教育・指導」等については改善に努めたい。</p> <p>・このような PDCA サイクルの質をさらに高め、スムーズな運営ならびに運営強化につなげたい。</p>	

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> ■運営方針を文書化するなど明確に定めているか ■運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか ■運営方針を教職員等に周知しているか ■運営方針の組織内の浸透度を確認しているか 	4	<p>前年度総括時に年度目標をかかげ具体的数値目標を挙げて取組んだ。</p> <p>学園本部と連携をはかり、職員会議他の学内の定例会議において周知している。</p>	継続する。	PDCA サイクルの質を高め運営の強化に務める。	定例会資料、運営会議議事録、職員会議資料、該当年度総括及び次年度方針資料（広報、教育、就職）、各部の総括と次年度目標、国家試験対策委員会議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営方針を定め、学生募集、学習成果（進級・卒業・国家試験合格率など）、学生支援（就職率）、それぞれ目標数を掲げて取組んだ。経過中、繰り返し各種会議で審議し方向性を見直した。	

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

井戸 佳子

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中期計画（3～5 年程度）を定めているか ■ 単年度の事業計画を定めているか ■ 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか ■ 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか ■ 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか 	4	<p>職業実践専門課程認定に向けて計画的に実行し、認定を受けた。</p> <p>新しい入試制度や学費改定に向けて計画的に実行し平成30年度から開始した。</p> <p>学科毎に学習成果をあげるために計画的に実行した。</p> <p>部毎に目標を立て実行し校務をスムーズに運営した。</p> <p>各種会議で見直し実行した。</p>	継続する。	今年度の総括・結果をもとに次年度の事業計画を立てる。	<p>定例会資料、運営会議議事録、職員会議資料、該当年度総括及び次年度方針資料（広報、教育、就職）、各部の総括と次年度目標、</p> <p>国家試験対策委員会議事録、組織規程、校務分掌</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期的・単年度の事業計画を定めて取組んでいる。組織的体制の中で見直し改善し実行した。	

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	井戸 佳子
--------	------------	-------	-------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか ■理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか ■寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか 	4	寄附行為に基づき理事会と評議委員会を開催している。また、監事が法人の監査を行っている。	特になし	理事会及び評議員会は、寄附行為に基づき適正な運営を行う。	法人寄付行為 理事・監事・評議員名簿 理事会議事録 評議員会議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか ■現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか ■各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか ■会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか ■会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか ■組織運営のための規則・規程等を整備しているか ■規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか 	4	学校運営体制は運営組織図によって明示されており、各部、委員会が各種規則を定め、業務の範囲等について必要事項を明確にしている。また、各部・委員会は月に1回定例で会議を開いており、その際は議事録を全て作成している。	現状の継続および各組織の維持を目指す。	特になし	組織図 各委員会規程 各委員会議事録

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	■学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>寄付行為に基づき理事会と評議員会を開催している。また、監事が法人の監査を行っている。</p> <p>学院長補佐、副学院長を置き、学校運営を適切かつ迅速に遂行できる組織を整えており、組織内の各部・委員会は規則に基づき適正に運営されている。</p>	特になし。

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	森 寛之
--------	------------------	-------	------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか ■適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか ■給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか ■昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか ■人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか 	3	給与規定によって専門学校教員及び事務職員ごとの階級が定められている。	人事考課制度は、学園内の別部門において平成30年度より導入が開始された。同様にリハビリテーション学院でも、人事考課制度を導入できるかが、今後の課題である。	人事に関する制度は実施されていないが、導入の可否については慎重に検討していく必要がある。	給与規定 退職金規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令等に則り、給与規定を定め、必要な人材の確保と把握に努めている。	特になし。

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	本村 保彦
--------	------------	-------	-------

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか ■意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか ■意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか 	4	各部署より出された事業計画・予算案について、整備された組織体制の中で決定し、学園本部での承認を得て実行に移している。 組織規定に基づいている。	継続する。	年度計画・予算をもとに現状に即した修正や本部との連携強化をはかりスムーズな運営に務める。	校務分掌規程、校務分掌、定例会資料、学科長会議事録、部長会議事録、運営会議議事録、職員会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定は整備された組織体制の中で行われている。	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	井戸 佳子
--------	------------------	-------	-------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input checked="" type="checkbox"/> 情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input checked="" type="checkbox"/> 学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか <input checked="" type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input checked="" type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理・教育支援システム (SchoolGear ; プランナーズランド社製) を導入・利用しており、概ね安定した状態で利用できている。 ・向陽学園教材閲覧システムを利用し、連絡事項の伝達、教材の閲覧、求人情報の公開など、常に最新の情報を提供している。 ・スマコク (PT・OT用国家試験対策ソフト) やエデン (ST用国家試験対策ソフト) を導入・利用しており、国家試験対策および学習指導に活用している。 ・これらの利用者 (学生・教職員) は個人別に ID とパスワードを持ち、システムを利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材閲覧システムにおける e ラーニングの活用 (教材の提供) が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配信する側の教職員に対し活用方法に関する情報提供を行い、活発な利用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e ラーニング教材の活用状況調査票
中項目総括			特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)			
概ね良好な状態で、取り組んでいる。						

最終更新日付	2019年3月11日	記載責任者	中尾 夕子
--------	------------	-------	-------

基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 「学生の自己学習能力強化」と「教員の教授力強化」を目標に学院挙げて取り組んだ。</p> <p>（1）自己学習のツールとして「閲覧システム」利用の副教材および「スマホ対応」の国家試験対策システムのeラーニング教材活用を推奨した。「スマホ対応」教材の活用は最終学年を中心に活用されたが、「閲覧システム」副教材の活用は次第に少なくなってきた。</p> <p>（2）模擬試験の回数を増やし、また学生個々の成績評価力の向上に努め、指導方法を考慮する等の対応を図った。</p> <p>（3）キャリア教育の実施や教員のフォローアップ等により、臨床実習不適應による休学や中途退学者は極めて少なくなった。</p> <p>（4）「国家試験対策委員会」の会議を強化し、学監の助言を頂きながら、例年以上に国家試験対策に努めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「閲覧システム」副教材については、教材の内容や利用しやすいシステムへの変更等を検討したい。 ・引き続き、成績評価力の向上を図りたい。併せて、試験問題の難易度についても検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から実施している「卒業に関する特別試験」を今年度も実施し、6名中6名が合格し卒業が認められた。

最終更新日付	平成31年 3月 30日	記載責任者	本川 哲
--------	--------------	-------	------

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input checked="" type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input checked="" type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4	本学院の各ポリシーに関してそれに基づいた人材の育成に努めている。	学科間の格差を減らし、学院全体で均整の取れた学力獲得を目指す。	教育課程編成方針に則り、業界に求められる人材の育成に努める。	学生要覧 教育課程編成方針に関する文書(作成予定)
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input checked="" type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input checked="" type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input checked="" type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	4	国家試験の出題基準に合わせ、教育内容の設定を行うと共に、各学年におけるホスピタリティー論を実施し医療職としての人間性の育成を行っている	教職員の自己研鑽を怠ること無く、様々な能力の学生に応じた個別に適應できる教育体制を目指す。	学生の学習能力の傾向を早い段階で捉え、その結果から個別にアプローチでき態勢を整えていく。	教育課程編成方針に関する文書(ポリシーシート) 学生要覧、シラバス、実習契約書等

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
今年度は各ポリシーを設定した。 基礎的内容の反復学習に努め、知識の定着を図る必要がある。	各ポリシーに沿った人材の獲得・育成・輩出を行った。

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

安藤 隆一

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input checked="" type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか <input checked="" type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input checked="" type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4	<p>教育課程の変更は今年度は行っていない。</p> <p>教育課程編成委員会が2年目となり、教育内容について外部より意見を頂いた。</p> <p>理学・作業の指定規則の改定に向けて、検討を行っている。</p> <p>理学療法学科二部においては、単位制のため半期ごとに担任指導のもと履修登録をおこなっている。</p>	<p>理学・作業の新指定規則に沿った教育課程を2019年夏までに完成させること。</p>	<p>教育課程については、各学科で随時協議しながら、教育課程編成委員会や運営委員会、学科長会にて検討する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.学生要覧 2.シラバス 3.会議議事録 4.理学療法士・作業療法士 新指定規則 5.履修登録申請書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input checked="" type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input checked="" type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか		<p>昨年度より、シラバスを閲覧システムに掲載し、学生がインターネット上でも見るようにしている。</p> <p>監査前に一度整理したことで、様式が整った。</p> <p>シラバス回収の一覧表を作り、より徹底を図っている。</p>	<p>講義開始日までにシラバスを公開することができなかった科目があった。</p>	<p>年度初めに、シラバスの回収を徹底する。</p> <p>また出席簿に回収結果のチェック欄を設ける。</p>	1.既修得単位認定書（写し）
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	<p>教育課程編成委員会を年2回以上開催し、外部からの意見聴取や評価を行っている。</p> <p>在校生においては、講義アンケートや普段の学校生活の中で聞き取りを行っている。</p> <p>卒業生や関連業界、就職先に対しては、臨床実習指導者会議にてカリキュラムを提示し、意見を求めている。</p>	継続して行う。	継続して意見聴取を行う。	1.講義評価アンケート 2.教育課程編成委員会議事録
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	4	<p>キャリア教育として、未来ノートを用いた取り組みを行った。</p> <p>各学科で担任を中心とし、時間を設けて、学生指導を行なっている。</p>	<p>学院全体としてキャリア教育に努めていく必要がある。</p> <p>教員間でもキャリア教育についての目的意識を明確にしておく。</p>	<p>数名の教員が外部の研修を行う。</p> <p>キャリア教育の効果を検証する。</p>	1.取材資料

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		ホスピタリティー論の実施（各学科）			1.ホスピタリティー論講義資料 2.未来ノート
3-9-4 授業評価を実施しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか	3	各講義の終了後に、講義評価アンケートを行っている。	講義評価アンケートは現在紙面上で行っているため、担任・学生共に負担が大きい。 外部講師においては、アンケート結果の反映の検証には至っていない。	講義評価アンケートの方法を検討する。 また外部講師への評価のフィードバックを実施する。	1.講義評価アンケート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>今年度は教育課程編成委員会を年 2 回開催した。理学療法学科・作業療法学科においては、2020 年度の指定規則改正に向けて、教育課程再編成作業を進めている。</p> <p>シラバスについては一覧表を作成し、回収率も向上してきている。</p> <p>キャリア教育においては未来ノートを使用し、各学科で担任を中心とし、時間を設けて、学生指導を行なっている。</p> <p>講義評価については授業ごとに実施できている。</p>	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	田中 美紀
--------	------------------	-------	-------

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input checked="" type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input checked="" type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	3	<p>学生要覧に基づき、評価している。前期、後期ごとに成績通知書を明示している。</p> <p>前期・後期において成績判定会議を行っている。</p> <p>入学前の履修、他の教育機関の履修の認定も適切に運用している。</p> <p>試験に関する注意事項を年度初めに作成し、教務全体で内容を確認した。</p>	<p>試験の運用に関して、教員で統一、周知徹底ができていない部分があった。</p> <p>成績評価においては、判定会議において審議なされた結果ではあるが、基準外の評価となることがあった。</p>	成績評価においては、基準を遵守し客観性・統一性の確保に取り組む。	1.成績通知書 2.判定会議資料 3.既修得単位認定書 4.学生要覧
3-10-2 各種科目試験は適切に行えているか	<input checked="" type="checkbox"/> 試験スケジュールは適切に立てることができているか <input checked="" type="checkbox"/> 試験依頼・受取はスムーズに行えているか <input checked="" type="checkbox"/> 試験実施は適切に行えているか <input checked="" type="checkbox"/> 評点等に対する学生の問い合わせ窓口はあるか	4	<p>昼間部も一定の試験期間を設けず、講義終了後、その都度試験を実施する形式に変更した。</p> <p>試験スケジュールについてのアンケートを学生および教員に行った。</p>	<p>講義変更に伴う試験日程の変更、調整が難しかった。</p>	講義変更にも対応が出来るように、余裕をもった試験の時間割を考える。	1.試験時間割表 2.試験作成依頼 3.試験依頼・受取一覧 4.問い合わせ用紙 5.アンケート

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-3 講義や実習の運営は適切に行えているか	<input checked="" type="checkbox"/> 時間割作成は適切に行えているか <input checked="" type="checkbox"/> 講義変更の連絡は適切に行えているか <input checked="" type="checkbox"/> 実習施設の情報管理は適切に行えているか	4	<p>スクールギアにて管理している。講義変更も手順に従い適切に行っている。</p> <p>実習施設の情報については、各学科で適切に管理している。</p>	特になし	特になし	1.時間割表 2.講義変更届 3.実習施設一覧
3-10-4 学籍管理は適切に行えているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学生の入学、編入学、休学、再入学、退学の学籍管理は適切に行えているか	4	<p>スクールギアにて管理している。</p> <p>入学者に対しては入学願書、休学・退学者については、休学・退学届けを記入・提出させ、適切にそれを管理している。</p>	特になし	特になし	1.各種届出用紙 2.入学願書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>成績評価・単位認定については、成績判定のマニュアルを作成し、全学科の教員が出席のもと判定会議を実施したが、基準外の判定が適用される例があった。今後は更に統一性のある評価ができるよう、教員間で情報共有し、共通理解を求めていく。</p> <p>講義や試験のスケジュール立案、実施については、昼間部において試験の実施方法を変更したため、変更の対応に苦慮する場面があった。</p>	

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input checked="" type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input checked="" type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4	入学前指導や入学時オリエンテーション等で明確に位置づけられている。	特になし		学生要覧(学則、教育課程表)、時間割等
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input checked="" type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4	基礎科目、専門科目それぞれ厚生労働省の指定規則を満たす教育内容である。不合格者に対しても国試対策を個別で実施している。	合格率 100%に至るよう、努力を継続すると共に、より充実した対策を考える。	早期からの国家試験出題基準に応じた国試対策と、国家試験対策委員会での最終学年指導方針の充実を継続する。	国家試験対策委員会資料等

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
国家試験対策委員会を定期に実施し、各学科共通して学生の傾向や、成績下位グループに対する指導方法の立案、情報交換を実施している。	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	安藤 隆一
--------	------------------	-------	-------

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか ■授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか ■教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか ■教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか ■教員の採用計画・配置計画を定めているか ■専任・兼任（非常勤）、教員構成を明示しているか ■教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか ■教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか 	3	<p>教員は全て厚生労働省指定の教員資格要件を満たしている。一部の学科において年度途中より1名不足となっている。</p> <p>各学科の教育内容・方法は、養成施設指定規則の基準を満たすとともに、学科の教育目標等に適合している。</p> <p>専任・非常勤の別をシラバスや時間割において明示している。</p> <p>学科において教員1人当たりの授業時間数、学生数等を把握している。</p>	教員の必要数を満たすために引き続き求人活動を進める。	継続する。	養成施設指定規則シラバス、時間割

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■教員の専門性、教授力を把握・評価しているか ■教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか ■関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか ■教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか 	4	教員は必要に応じ研修会等に参加し研鑽している。	研修参加の程度に教員間で差がある。	研修計画を定め、適切に運用する。	出張復命書 研修計画書
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか ■教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか ■学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか ■授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか ■専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか 	4	<p>組織運営規程を整備し業務分担、責任体制を明確に定めている。</p> <p>学科を中心に授業科目担当教員間で協力体制を整えている。</p> <p>非常勤への対応にこころがけ、授業についても連携を図っている。</p>	継続する。	継続する。	組織運営規程 職務分掌表 各部・委員会規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員は厚生労働省より示された資格要件を満たしている。各種団体が実施する研修会に参加し教授力向上に努めている。非常勤教員は適切に選定している。専任教員間、非常勤教員との連携を図り、授業内容の改善に取り組んでいる。	特になし。

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	井戸 佳子
--------	------------	-------	-------

基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 全学科 95%以上を目標に取り組んだが、卒業した最終学年（新卒者）の国家試験合格率は全学科、昨年により低い結果であった。</p> <p>理学療法学科一部：70.3%（昨年度 83.8%） 理学療法学科二部：72.2%（昨年度 78.6%） 作業療法学科：80.8%（昨年度 90.0%） 言語療法学科：87.5%（昨年度 96.0%）</p> <p>2. 卒業生の国家試験指導については、個々のライフスタイルに併せて1年間指導している。「4月より」「定期的に」「学院の指導を受けている」者については、概ね良好な結果であった。 仕事やアルバイト等の都合で自己学習に終始した者は不合格であった。</p> <p>3. 学生のレベルにあった学習支援等で進級率向上に努めたが全体で 5 名の留年者が出る結果となった。</p> <p>留年者数：理学療法学科一部　　－0名 作業療法学科　　3年－1名 言語療法学科　　2年－1名 理学療法学科二部 3年－1名 同 4年－2名</p> <p>また、退学者数は 6 名（昨年度 10 名）と一桁となり、学力面でのフォローがなされたことも減少の要因の一つと考えている。</p>	<p>・引き続き、国家試験対策委員会主導のもと、学生個々の成績評価の精度をさらに向上させたい。それを基に、早期より個別指導等に取り組みたい。また、卒業試験の難易度の整合性を図り、今年度達成できなかった全学科 95%以上の合格率を目標に取り組みたい。</p> <p>・基礎学力向上や学習の習慣化を図るため 1・2 年次よりグループ学習を導入する等、少人数による国家試験対策学習に取り組みたい。</p> <p>・「向陽学園閲覧システム」を利用した教材や「スマホ対応の国家試験対策システム」教材等の活用をさらに推進し、講義のみならず自己学習の習慣化を図りたい。</p>	<p>・今年度は 4 月より回数を増やして国家試験対策委員会会議を行なった。その際に向陽学園本部の山川学監がアドバイザーとして参加頂きご指導頂いた。</p>

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<ul style="list-style-type: none"> ■就職率に関する目標設定はあるか ■学生の就職活動を把握しているか ■専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか ■関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか ■就職率等のデータについて適切に管理しているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・就職委員会を開催し、情報共有はもちろんのこと、目標および手順等を確認しながら学科ならびに就職支援室が連携して学生支援を行った。 ・10月18日に「就職説明会」を実施し、昨年を上回る48施設の参加があった。 ・業者による就職セミナーや授業（ホスピタリティ論）での就職対策を実施した。 			<ul style="list-style-type: none"> ・年間目標（定例会報告） ・就職活動等状況報告データ ・就職希望調査票 ・就職先一覧 ・就職支援資料 ・求人件数統計表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「就職説明会」も3回目となり、学院の考えや学生の状況等への理解もすすみ、病院ならびに施設との関係も少しずつ構築されてきており、参加施設への就職者数も年々増加してきた。また、希望施設への就職を目標に県内の施設への働きかけを行った結果、若干ではあるが、県内の求人数増につながった。	関東および関西からの求人が増えてきている。特に、関西でのOT不足が顕著とのことで、3回以上も求人依頼を頂く施設も少なくなかった。

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	井崎 義己
--------	------------	-------	-------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<input checked="" type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input checked="" type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか <input checked="" type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	4	国家試験対策委員会において合格率（取得率）の目標値を設定し、国試対策のセミナー、国家試験に準じた模擬試験・卒業試験を実施している。	国家試験合格率の向上に向けて今後一層努めていく。学科間における試験難易度の格差が無いよう作成時に留意する。	専任教員を中心に国家試験対策授業を行い、また、効果的なグループ学習の体制を整える。またよりブラッシュアップした模擬試験を作成するよう継続する。	各学科の目標資格、3 学年特別講義の開設一覧、国試対策委員会資料等 過去 3 年間の各学科資格取得率データ、合格実績・合格率データ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
残念ながら100%には至らなかったが、国家試験対策委員会の方針を元に、100%合格を目指していきたい。	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	安藤 隆一
--------	------------------	-------	-------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■ 卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか ■ 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月卒業生の就職先である75施設に就職後状況調査を送付し、同意を得られた27施設より回答を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好な評価を頂いた。 ・就職に際しては圧倒的に「コミュニケーション能力」の必要性が挙げられた。卒前指導の中でどのように教授していくかが今後の課題となってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ※平成31年3月卒業生については、在学中に就職後状況調査のための同意書を既に取り付けている。今年度より多くの施設からの回答が得られるものと思っている。 ・指定規則の改正に伴うカリキュラム変更を期に、「コミュニケーション能力」向上に特化した科目の導入を検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職後状況調査結果一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職支援ならびに卒業生の卒後の真面目な働きぶりには一定の評価を頂いている。今後は、調査から明らかになった「コミュニケーション能力」の向上に対して、学院としてどのように取り組んでいくのかが問われてくるものと考えている。	特になし。

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	井崎 義己
--------	------------	-------	-------

基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 今年度より「学生相談室」を学生部の運営に位置づけしベテランの教員 1 名が専属で対応した。その報告を担当ならびに学生部長に行い、学科の教員や養護教員とも連携し対応にあたった。結果、中途退学者が全学科で 6 名まで減少した（昨年度 10 名）。</p> <p>2. 補習や学習会等の学習支援体制の充実により、学力の向上はもとより、学力面が原因での退学者は激減した。</p> <p>3. 学生部を中心としてクラブ活動やボランティア活動の支援等を行っている。今年度は長崎県専修学校スポーツ交流大会の参加はもちろんのこと、後援会からの経済的な支援を頂くことで同九州大会（沖縄）にも 50 名を超える学生を派遣することができた。また、ボランティア活動を奨励することで、地域活動への参加や社会貢献につながった。</p> <p>4. 学習面では「向陽学園閲覧システム」や「スマホ対応の国家試験対策システム」を利用した教材を整備し自己学習の支援を行った。年々利用状況は少しずつ向上してきている。また、図書館の利用時間の延長（23:50 まで開館）等、学習環境整備に努めた。</p> <p>5. 就職に関しては「希望就職率 100%」を目標に取り組んだ。就職支援室に専属の職員を配置し、就職委員会と連携して指導ならびに支援に当たった。また、学生の希望が多い県内および佐賀県の求人数を増やすべく対応を行った結果、微増ではあるが昨年度を上回る求人数を確保できた。</p>	<p>・後援会が今年度で閉会するので、学生活動の支援については、経済的な側面を含め見直しや工夫等、学院ならびに学生ともに再検討したいと考えている。</p> <p>・アンケートによると使用方法がわからないや難しい等の理由で「閲覧システム」を活用していない学生が相当数いる。使いやすさ等の検討や魅力ある教材づくりについて学院挙げて取り組みたい。</p>	<p>・専門学校のみならず、大学まで広げても、年中無休で夜間部学生の利用も考慮して 23 時 50 分まで開館している図書館は他にはない。</p> <p>・「就職説明会」を 10 月に開催した。48 の病院施設の参加があり、そのうちの 12 病院施設に 26 名の学生が就職できた（昨年度は 12 施設に 23 名）。</p> <p>・また、就職支援室における履歴書の書き方や面談指導のべ回数が激増した。（昨年度 15 回⇒今年度 117 回）</p>

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■就職など進路支援のための組織体制を整備しているか ■担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか ■学生の就職活動の状況を学内で共有しているか ■関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか ■就職説明会等を開催しているか ■履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか ■就職に関する個別の相談に適切に応じているか 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・就職委員会を開催し、情報共有はもちろんのこと、目標および手順等を確認しながら学科ならびに就職支援室が連携して学生支援を行った。 ・10月18日に「就職説明会」を実施し、昨年を上回る48施設の参加があった。 ・業者による就職セミナーや授業（ホスピタリティ論）での就職対策を実施した。 ・担任ならびに担当者が学生個々に状況に応じた支援ならびに指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。（継続して実施したい。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。（継続して実施したい。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料および議事録 ・業務日誌 ・マイナビ資料 ・ホスピタリティ論資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員ならびに就職支援室担当者も経験を積んできており、就職委員会を中心に学生支援が十分に機能してきているものと考えている。	特になし。

最終更新日付	平成31年3月16日	記載責任者	井崎 義己
--------	------------	-------	-------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input checked="" type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input checked="" type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input checked="" type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input checked="" type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4	退学者の軽減を図るためベテラン教員による面談室を開設。担任を中心とした個人面談や前期試験終了後の保護者面談等を実施。中途退学にいたる原因を早期から把握、解決できる体制を取っている。	学力の低い学生と経済的事務の関連が見られる傾向があり、経済的理由から原級継続ができず退学に至るケースもみられる。今後も面談の実施や経済的支援の充実などに努める。	退学の原因をより詳細に分析し、今後の学生の傾向から退学のリスクを早期から発見し、対応できるように努め、全体での退学者数を1桁に留めるよう努力する。	各学科退学者、退学率過去3年間推移データ(指定様式) 入学者、退学者、休学者、在籍者過去3年間推移データ、退学要因分析データ、退学率低減のための具体策確認資料(奨学金・補習・面談等)、面談室ノート等

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
全体数として中途退学者は減少傾向である。 退学理由が多岐にわたるためすべてへの対応は難しい。 今後も担任を中心に、学科、学院全体で退学者低減に取り組んでいきたい。	

最終更新日付	平成30年3月30日	記載責任者	安藤 隆一
--------	------------	-------	-------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input checked="" type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか	4	<p>学生の相談は担任を中心に学科長、副学院長、学院長と連携がとれる態勢になっている。またベテラン教員による相談室を開設し学生への周知を行っている。相談内容は担任にも伝達され、上記連携において共有化されている。</p>	<p>相談できている学生に対しては対応できているが、相談ができない潜在的な学生の存在も予測される。より能動的な学生との関わりの中でその芽を見つけて出す必要がある。</p>	<p>ホームルームにおける学生の様子の変化への気づきの強化、より相談しやすい体制作りを努める。</p>	<p>学生相談室案内のポスター、相談室活用状況のデータ、医療機関等専門機関との連携を確認する資料（契約書？）</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>担任制によるフォローから、より専門的な相談まで対応できる態勢は整えている。</p>	

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	安藤 隆一
--------	------------	-------	-------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input checked="" type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input checked="" type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	4	<p>奨学金の募集には毎年実施している。入学金・授業料等の見直し、実習費等の徴収方法等で年間の経済的負担の軽減に努めるよう検討を行った。</p> <p>また、次年度入学生から特待生制度を新たに設けた。</p>	<p>奨学金希望者は保護者の経済的状況を背景に年々増加傾向が見られる。日本学生支援機構奨学金のみでは対応できない場合でも、学院独自の教育ローンやその他の財団給付等の紹介を随時行う。</p>	<p>入学金、授業料の見直し、特待生等の制度等も視野に入れ、経済的な負担の軽減に努めていきたい。</p>	<p>学院奨学金制度の規定とその運営状況、支給決定がわかる資料、保護者通信、保護者への奨学金案内文書、</p>
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input checked="" type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input checked="" type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input checked="" type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input checked="" type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか	4	<p>年に1回の定期健康診断を実施している。また本館並びに西館には保健室を設置し、専任の養護教諭で対応できる態勢を整えている。</p> <p>敷地内及び近隣における禁煙を実施している。</p>	特になし	<p>今後も健康面の支援を積極的に行っていく。</p>	<p>学校保健計画書、保健管理体制が確認できる資料(校医選定、保健室設置、健康診断実施等)、健康診断実施記録、スケジュール、有所見率、二次健診の実施内容</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input checked="" type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか					
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input checked="" type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	4	部活動に対しては活動における人的・資金的な支援を行っている。また毎年専修学校特殊学校スポーツ大会に参加し、その実績などを公表している。	特にない	よい一層の支援・協力を努めていく。	課外活動団体登録申請書、課外活動への支援実績がわかる補助金申請・交付関係書類、課外活動の紹介を学院内外に紹介した資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日本学生支援機構の奨学金に対しては、基準を満たす学生に対し最善の考慮をしている。また新たに31年度入学者から奨学金制度を設定した。	

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	安藤 隆一
--------	------------	-------	-------

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input checked="" type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	保護者便りを刊行し、学生の状況や学院の取組み等を報告している。また成績表の送付と共に特に成績不振者については電話連絡や個別面談を実施している。また定期的に保護者面談を実施し連携を図っている。	より学院の取組みに対し知ってもらえるよう、保護者だよりの内容の充実を図る。	保護者便りの内容の充実。学生の学院生活や学業の様子を知らせる為の連絡回数の増加。面談時期の検討。保護者と教職員の協働体制を整えていく。	保護者便り、保護者面談の案内や記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者面談については概ね好評を得ており、学院への意見を吸収する良い場にもなっている。保護者アンケートの結果をより吟味し、反映できるように努めていきたい。	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	安藤 隆一
--------	------------------	-------	-------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input checked="" type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input checked="" type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input checked="" type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	<p>同窓会が設置し研修会を実施した。</p> <p>再就職等に対しても就職支援室において支援態勢を整えている。</p> <p>作業療法学科においては定期的な研修会等を実施している。</p>	同窓会の活動をより充実し、研修会の時期や内容を充実しつつ、卒後支援を強化していく。	同窓会名簿の改訂やHPの作成などを通して、卒業生と学院の繋がりをより密にしている。	就職支援室におけるフォローを表す書類、同窓会刊行物など、卒後再教育プログラム、講座の開設等資料、
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input checked="" type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	4	各学科、県士会活動を通じて連携協力を図っている。言語療法学科においては事務局として研修会・講演会等に関与している。	引き続き継続していく		専門実践教育実践講座の指定、各県士会との関係書類
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input checked="" type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input checked="" type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input checked="" type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	4	<p>大卒等社会人経験者に対し、一般基礎科目における単位認定を行っている。</p> <p>理学療法学科二部においては単位制とし、長期履修を可能としている。</p>	引き続き継続していく		母子家庭支援の案内、単位認定会議資料、

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会活動を復活し、総会、並びに研修会を実施した。 学科間での差はあるものの卒後研修を実施している。 実習指導者へ繋げられるよう、各県士会活動と連携しながら強化していきたい。	

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

安藤 隆一

基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. クラス担任（場合により副担任を置く）を配置し、学生個々の学習面や生活面の把握ならびに理解に努めた。そして、学科長を中心に学科内での共通認識のもと偏った指導等にならないよう心がけた。また、担任自身が孤立するや自責にかられないよう学科全体での指導を基本と考えた。</p> <p>2. 講義に関しては、学生の講義評価や教員の自己評価等を参考にしながら内容の改善に努めている。また、情報管理部等を中心に ICT 教育の検討等も行い始めた。</p> <p>3. 臨床実習に関しては、年度当初に「臨床実習指導者会議」を開催し、学院の方針等を指導者に理解して頂くとともに学院と指導者相互の意思疎通や情報交換を行い学生が安心して臨床実習に取り組める環境設定に心がけている。また、臨床実習先への巡回指導等で積極的に学生の様子を確認ならびに把握することで、臨床実習が学生の意欲を低下させる要因とならないよう学院、学科を挙げて取り組んでいる。</p> <p>4. 講義内容の充実と併せて、「学園閲覧システム」を利用した副教材の配信や「スマホ対応の国家試験対策システム」を利用した問題の確認や模擬試験の実施により、学院外での自己学習やグループ学習に認知、活用されるようになった。</p> <p>5. 向陽学園図書館は開館延長の対応やインターネット環境の充実等により自己学習の場として、学生の学びの場として有効活用されている。</p> <p>6. 図書館はもちろんのこと、各館の学習室も開放して学生の学習に有効利用している。卒業生にも所定の手続きのもと利用を許可している。</p> <p>7. 学院での学習へスムーズな移行ができるように、学院の入学前指導に加え、業者の入学前指導を試験的に導入した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定規則の変更に伴う検討の中で、学生からの意見や要望等を考慮した内容等を検討したい。 ・「臨床参加型（クリニカルクラークシップ）」の指導方法の導入等に向けて検討したい。また、そのベースとなる「キャリア教育」と併せて検討したい。 ・活用が増した「スマホ対応の国家試験対策システム」についてさらに利用を進めていきたい。「学園閲覧システム」については、学生の満足度にあった内容の検討はもとより、使いやすさや利用のしやすさの観点から再度検討を進めたい。 ・業者の入学前指導テキストに関しては概ね好評であったので、ルーティン化する方向で検討したい。 	

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか ■図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか ■図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか ■学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか ■施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか ■手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか ■卒業生に施設・設備を提供しているか ■施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか ■施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか 	4	<p>計画的に施設、設備、教育用具購入費等の予算を確保し、学生により良い環境作りを行っている。</p> <p>年中無休の図書館を学生に開放し、自主学習の場を提供している。図書館1階には食事・休憩ができるカフェを併設している。また、卒業生や一般団体からの依頼により、学院および図書館の講堂や多目的スペースを貸し出している。</p> <p>年2回の消防点検をはじめ法令で定められた点検は全て実施し、また夏季と春季に業者による定期清掃を実施し、施設・設備の維持管理を行っている。施設・設備の欠損や故障が発覚した場合は、その都度、修理・交換を行い、教育環境の維持に努めている。</p>	<p>設立40年を目前にし、本館施設内においては、経年により改修が必要な部分がある。修繕や交換が必要な設備をバリアフリー化も考慮し、計画的に改修していく必要がある。</p> <p>また、指定規則の改正による、教育用具の補充についても更新計画を立てる必要がある。</p>	<p>関係法令で定められた施設・設備等を備え、各学科の教育目標に対応できるように整備する。整備計画を立て予算を確保し、必要な部分から順次整備していく。</p>	<p>備品台帳 整備計画書 図書目録 各点検報告書 校舎配置図</p>

項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院の施設・設備基準は、全て基準を充たしている。そのほか、カフェを併設している図書館を設置しており、学生が適切な教育環境の下で学習に取り組むことが出来るよう整備されている。必要な備品は、十分に検討したうえで新規に購入するなど、的確に判断し整備している。また図書の充実に取り組んでいる。</p>	<p>特になし。</p>

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	森 寛之
--------	------------------	-------	------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input checked="" type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input checked="" type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input checked="" type="checkbox"/> 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input checked="" type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先等に行事の案内をしているか	4	<p>臨床実習に関し、指導者会議を実施し学院と施設との連携を図っている。また学院においても、実習施設として基準において指導者・設備等の情報を収集している。また実習中は実習巡回を通して学生の状況の把握、並びに指導を行っている。</p> <p>PT/OT 養成施設基準の変更に伴う実習指導者研修会に専任教員を派遣した。</p> <p>現在、海外研修は実施していない。</p>	<p>診療参加型実習への移行に向けた準備を進めて行く。</p> <p>実習担当者の配置に向けた検討を行っている。</p>	<p>学外実習に対応した学内演習の充実。</p> <p>実習指導者向けに診療参加型実習の講習会等の継続実施。</p>	<p>学生要覧、実習マニュアル、実習契約書、SV会議資料、実習巡回記録、学外実習安全管理対策の資料(抗体検査実施、感染予防講義資料)、実習時の安全管理、不測の事態に備えた措置状況の確認資料、学生傷害保険関係書類、学友会規約、学校行事の実施記録</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学外の臨床実習施設とは連携のとれた教育が行われている。 今後はより学生のニーズに応えるべく、実習施設の種類、地域等を 充実していきたい。また、理学・作業療法士養成基準に合わせた実習時間・ 実習形態への準備を引き続き進める。</p>	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	安藤 隆一
--------	------------------	-------	-------

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか ■施設・建物・設備の耐震化に対応しているか ■消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか ■防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか ■備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか ■教職員・学生に防災研修・教育を行っているか 	3	<p>法令に基づき消防設備点検を実施し、不具合箇所は適切に対応している。</p> <p>年1回消防署指導のものと消防訓練および年1回の自主訓練を実施している。</p> <p>避難訓練時は、火災のほか地震を想定して行っている。</p> <p>7月に土砂災害警戒区域として指定されたため、土砂災害に関する避難確保計画を作成した。</p>	地震や大雨、その他の災害に対応するマニュアルを作成中であるが、まだ完成に至っていない。	全ての災害に対応した総合防災マニュアルを完成し、各種訓練を実施し、職員・学生の防災意識を高める。 施設・設備の耐震化については、近年の災害の現状をふまえ、古い建物を中心に検査していくことが必要である。	<p>消防計画</p> <p>消防設備点検結果報告書</p> <p>防災（避難）訓練計画</p> <p>土砂災害に関する避難確保計画</p>
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■学校安全計画を策定しているか ■学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか □授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか 	2	<p>養護教諭を中心に感染症対策マニュアルを作成している。</p> <p>また、実習オリエンテーション時に学生には感染症についての安全対策を必ず指導している。</p>	授業時の安全対応マニュアルが未整備である。 また、夜間・休日時の施設管理および安全対策については検討が必要である。	安全対応マニュアルを早急に作成する。また、防犯、安全対策としてまた、防犯カメラの設置、警備会社との連携や行政との連携が必要である。	感染症対策マニュアル 各実習要綱

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<ul style="list-style-type: none"> ■薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか ■担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか 					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>土砂災害警戒区域として指定されたため、土砂災害に関する避難確保計画を作成した。今後は全ての災害に対応した総合防災マニュアルを整備して訓練等を実施しなければならない。</p> <p>感染症等については、マニュアルを作成済みであり、学生には実習オリエンテーション時に再三指導している。</p> <p>夜間時や休日時の職員が不在時を踏まえ、行政や警備会社との連携を図り、安全対策に努めたい。</p>	特になし。

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	森 寛之
--------	------------------	-------	------

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 企画の段階から、実施ならびに状況報告、改善に対する指導等学園本部と連携して学生募集には取り組んだ。</p> <p>2. オープンキャンパスについては、その時期の対象を絞って内容や方法等を検討しながら実施した。参加者の数もさることながら、参加者との距離感を縮める努力が功を奏し、志願者増につながった。</p> <p>3. 今年度はガイダンス等、直接、高校や生徒に働きかけることに力を注いだ。「特待生制度」や「減免制度」、「学納金の変更」等、広報する内容を持っての説明だったので好意的で聞く耳をもって対応頂いた。</p> <p>4. 作業療法学科では地域貢献を含め、一般の方にも研修会や講演等広く開放して、その存在や仕事の内容等が認知されるようになってきた。その結果、目標を超える定員数 40 名の入学者を確保することができた。</p> <p>5. 理学療法学科二部（夜間部）は夜間帯でのオープンキャンパスを開催する等を試みたが学生数増には至らなかった。また、言語療法学科については横ばい状態で今一步の企業努力の必要性を感じている。</p> <p>今年度は、120 名を目標に取り組んだ。目標達成と行かなかった学科もあったが全体としては目標数に近づけた。</p>	<p>・高校生の進路決定時期の早期化に伴い、オープンキャンパスの回数、時期、対象、内容等については入試広報部を中心にしっかりと検討して取り組みたい。</p> <p>・学院の特長や各種制度等をしっかりと広報ならびに周知し、また高校とのパイプを構築し、学生募集の好調を継続できるようにしたい。また、今年度で向陽高校特別進学制度の特例措置は終了し、次年度からは高校入学時に向陽高校特別進学制度を知って入学した生徒が対象となる。そのような生徒を取りこぼすことがないように高校との連携を強化したい。</p> <p>・理学療法学科二部（夜間部）ならびに言語療法学科については、入試広報部のみならず学科教員を含め、早急に対策を講じたい。</p>	

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<input checked="" type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input checked="" type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4	<p>高校訪問を重点的に行い、進路指導担当者との信頼関係構築を目指すとともに、教諭・保護者・入学検討者向けのファイルを作成し、入試や学院の取り組み、進路決定に関する情報を提供している</p> <p>進学説明会への参画などによる募集活動を積極的に行っている。</p>	<p>高校教諭が持つ各職種の需要や仕事内容などの情報において実際の情報が不十分な印象だった。</p> <p>進路指導に有用で適切な情報の提供に関してさらなる充実が求められる。</p>	<p>高校訪問などを通じて高等学校教員へ本学院・各学科の理解を得ていくとともに進学説明会や出前講座へ積極的に参加する。</p> <p>また、学院見学の積極的な受け入れなど、高校生に対する職業理解の機会を増やす。</p>	<p>高校訪問計画書 学院案内パンフレット 学院概要ファイル</p>
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	<input checked="" type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input checked="" type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input checked="" type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	3	<p>長崎県専修学校各種学校連合会が行う自主規制に従った募集形態としており、願書は適切な時期に受付を始めている。</p> <p>随時個別ガイダンスを開催し、電話およびメールなどでも相談に対応している。</p> <p>学院案内はわかりやすく作成し、入学希望者に毎年配布している。</p> <p>志願者などの個人情報厳正に管理している。</p>	<p>昨年度に比べ入学者は増加したが、募集定員を満たすに至っていない学科があり、さらなる志願者の増加を目指す。</p> <p>大卒・社会人に対する職業の向上および入学志願者の増加については、さらに充実を図る必要がある。</p>	<p>ホームページやSNS、テレビCMなど有効活用し、よりの確な情報をタイムリーに発信する。</p> <p>関係各方面からの情報を収集・分析し、より効果的な内容を検討する。</p>	<p>年間募集計画 学院案内パンフレット 学生募集要項</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input checked="" type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		<p>オープンキャンパスは年8回実施し、在校生の参加協力を得て、直接対話を中心に本学院の説明を行い、実際の姿を知ってもらえるよう努力している。また、時期ごとに志願者の趣向にあわせた内容で実施している。入試形態は推薦、一般、大卒・社会人等に加え、大学入試センター試験利用入試を導入し、志望者の状況に応じた受験ができるよう配慮している。</p>	<p>前半は体験型講義などを実施し仕事や学科ごとの学習のイメージを持ってもらうことができた。</p> <p>より一層リハビリの仕事について理解でき、学院について魅力を感じてもらえるよう、更なる工夫を加えていく。</p>	<p>オープンキャンパスで3年間の学びのイメージや、療法士としての将来像をしっかりと伝えることができるようオープンキャンパスの内容を検討する。</p>	オープンキャンパス実施要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集活動は事務職員、教員との連携により年間計画の基、適正に行っている。入学案内は勿論であるが、高校訪問や進学説明会、オープンキャンパスでの適切な情報提供に最大の力を注いでいる。大学入試センター試験利用入試、特待生制度などの入学制度や減免制度を充実させ、情報を適切に案内することに取り組んだ。結果、入学者数の増加につながった。しかし、募集定員を満たすに至っていない学科もあり、インターネット社会に対応し、学科や職業の認知度を高めるためにもホームページやテレビCMの内容を一層わかりやすく、興味をもってもらえるよう、様々な新しい取り組みや工夫をしていきたい。</p>	<p>高校訪問やオープンキャンパスでは学生の動向などに関する情報を正確に伝えており、このことは高等学校教員や参加者からも評価されている。また、3年間に掛かる諸費用等についても実績に基づくシミュレーションを提示することで、入学後の計画を立てやすく入学を勧めることにつながっている。</p> <p>高校生だけでなく、社会人志願者に対応するため、個別の問い合わせや個別ガイダンスにも随時対応している。</p>

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

町田勝広

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input checked="" type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input checked="" type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	4	<p>入学選考については「学則」に基づき適切かつ適正に実施している。</p> <p>選考基準を確認して試験を実施し、合否判定は「入試判定会議」によって決定する。</p> <p>作文・小論文・面接試験の採点は、必ず2名1組で行い、入学選考において多くの教職員が関わることにより、適正かつ公平な基準が守られている。各入試問題・解答用紙は厳重に保管し、採点においても複数で数回の確認を実施している。</p> <p>特待生選抜試験では、選択科目における点数の差が出ないよう偏差値に基づく評価を行い適切な選考を行った。</p> <p>大学入試センター試験利用入試は概ね適切な処理ができた。</p>	<p>減少していく新卒者、大学志向の生徒の増加を視野に入れながら一定レベルの学生を確保することが必須である。</p> <p>特待生選抜試験は、選択科目で得点に影響が極力ないように難易度を検討する必要がある。</p> <p>大学入試センター試験利用入試は、試験点のみならず、志望動機などの情報が必要。</p>	<p>入試問題は、試験科目ごとに受験生全体の平均値を算出し、問題の難易度を検証している。</p> <p>広く有能な受験生を確保するために、卒業生あるいは病院施設管理者からの推薦制度を実施している。また、社会人をターゲットとした入試では、一定水準の社会性や人間性が養われていると判断され、実施している。</p> <p>特待生制度およびを導入予定である。</p> <p>今後も必要に応じて選考方法を検討していく。</p> <p>大学入試センター試験利用入試は志願時に志望動機などを追加する。</p>	<p>学生要覧</p> <p>入学試験実施要項</p> <p>学生募集要項</p> <p>小論文資料</p> <p>面接資料</p> <p>入試判定会議議事録</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input checked="" type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測数値等の整合性を図っているか	4	<p>合格者、辞退率などを毎年、データ化し、適切に情報を管理し蓄積を行っている。</p> <p>入学後の教育に反映できる入学選考に関する実績を報告し、授業改善に活用している。</p> <p>目標数値達成に向けて募集活動を常時見直している。</p> <p>募集広報予算に応じて募集計画を行っている。</p>	<p>データの分析により行っているが、さらに次年度の学生募集戦略に反映させることで成果に結びつけることが必要である。</p> <p>入学内定後、学科主体で入学前指導を継続させる。</p>	<p>学科主体の学力向上の取り組みとして入学前指導を実施している。</p> <p>入学者の入学試験での成績をもとに、入学前のフォローに活用している。今後も引き続き入学選考結果を判断資料として学生教育を検討していく。</p>	入試各種データ 予算・収支計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学選考については、学生募集要項に基準を明示しており、適正かつ公平に行うことを重視している。また、選考情報等は毎年、継続的に記録し、次年度の選考に活用している。</p>	<p>新入学試験制度および減免制度として、大学入試センター試験利用入試と特待生制度を新設した。入試選考基準および選抜選考基準は設定した基準で適切に判定することができた。</p>

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

町田勝広

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか ■学納金の水準を把握しているか ■学納金等徴収する金額はすべて明示しているか 	4	他校の学費水準などを把握し、教育内容や教育環境と比較し妥当であるか検討している。	特になし	特になし	学生募集要項 学校案内パンフレット 学生要覧
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか 	4	学則に規定された手続きにより、適正に処理している。	特になし。	特になし。	学生募集要項 学生要覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金は、他校の学費水準も把握し、各学科における入学金、授業料（二部においては登録料、受講料）、施設設備費を算出し、協議の上決定している。	特になし。

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

井戸佳子

基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 財務基盤は中長期的視点で考えると、少子化の影響により不安定となるおそれがあるが、毎年度教育研究経費・管理経費において見直しを行い、経費を節減する努力をしている。</p> <p>2. 年度予算については科目ごとに詳細な分析を行なって予算を計上し計画的に執行している。当初の予算通りとならない場合は補正予算を組み、評議員会の意見を取り入れ、理事会において決定し年度内に完了するようにしている。また、会計監査については私立学校法に基づき、学園の監事による決算監査を受けている。また、私学振興助成法に基づく決算監査・月次監査を公認会計士により受けており、監査体制は適切である。財務情報公開については平成 30 年度より法律に準拠した公開を開始した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な予算執行のために、定期的な予算収支計画会議を行うことにより経費節減の意識を高めつつ、教職員全体で取り組んでいく必要がある。また、老朽化していく設備修繕のため、中長期的な観点で検討していく。 ・財務情報の公開については、本年度より開始した。今後は財務情報公開規程等を整備し、公開の方法や考え方を明示していきたい。 	<p>特になし。</p>

最終更新日付	平成 31 年 3 月 29 日	記載責任者	本村 保彦
--------	------------------	-------	-------

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか ■収入と支出はバランスがとれているか ■貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ■消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ■設備投資が過大になっていないか ■負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか 	4	応募者数、入学者数及び定員充足率の推移を把握したうえで、経費削減に努力している。	中長期的視点で考えると、少子化の影響により不安定となるおそれがあり、部門ごとに話し合いを進め効率的な運営を目指したい。	財務状況は、理事会、評議員会及び理事長以下学園本部担当者が把握及び共通理解しており、安定した入学者の確保を目指す。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 財産目録
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか ■最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか 	4	財務数値については、公認会計士に助言を仰ぎ、理事会及び評議員会で承認している。	財務数値報告とともに、諸資料についても充実させたい。	日本私立学校振興共済事業団が示している財務分析を実施し、適切な財務管理を行う。	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 財産目録

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<ul style="list-style-type: none"> ■最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか ■キャッシュフローの状況を示すデータはあるか ■教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか ■コスト管理を適切に行っているか ■収支の状況について自己評価しているか ■改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか 					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>中長期的に安定した学校運営をしていくため、入学者の確保について学園一丸となって取り組んでいるが、少子化および同種学校新設の影響により不安定になるおそれもある。各部門の財務分析を行い、学園全体にコスト管理の考え方を浸透させなければならない。</p>	<p>本法人の財務状況については、理事会、評議員会、理事長、会計士が一致して内容を把握している。</p>

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	本村 保彦
--------	------------	-------	-------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか ■予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか 	4	予算及び計画は評議員会での検討を経て、理事会で決定している。	予算の編成課程および決定過程を明確にするため、規則を整備し、過程を明確にする必要がある。	予算規則については、平成31年度の施行に向け、鋭意準備中である。	予算書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■予算の執行計画を策定しているか ■予算と決算に大きな乖離を生じていないか ■予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか ■予算規程、経理規程を整備しているか ■予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか 	3	予算は、理事会及び評議員会において決定され、適切な執行管理に努めている。	予算と決算を分析しながら、各部門の収支を明らかにし、適切な運営に努める。また、予算規則についての整備が必要である。	予算書を理事会、評議員会に報告し、適切な執行に努めることを方針とする。また、予算規則については施行に向け準備中である。	経理規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>予算については、理事長以下学園本部が作成し、会計士の助言を仰ぎ、理事会及び評議員会で決定し執行されている。</p> <p>部門ごとに予算と決算を分析しながら、適切な学校運営に努めていく。</p>	特になし。

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	本村 保彦
--------	------------	-------	-------

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<ul style="list-style-type: none"> ■私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ■監査報告書を作成し理事会等で報告しているか ■監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか ■監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか 	4	監査結果は監査報告書により理事会、評議員会に報告されている。また公認会計士による監査も実施している。	監査体制は適切である。	私立学校法及び寄附行為に基づき監事により監査を実施する。	寄附行為 監査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法及び寄附行為に基づき監事による監査を毎年実施し、その結果は理事会、評議員会に報告している。	特になし。

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	本村 保彦
--------	------------------	-------	-------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input checked="" type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	3	財務情報については平成30年度にホームページにて公開した。	今後は財務情報公開規程を整備し、公開の方法等を明確にする必要がある。	財務情報公開規程の整備に向け、学内にて検討する。	特になし。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
私立学校法に基づく財務情報公開は、学院のホームページにて今年度公開するに至った。今後は、考え方や方法等を明示した財務情報公開規程を整備する必要がある。	特になし。

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	本村 保彦
--------	------------	-------	-------

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の「養成校指定規則」ならびに「指導要領」を遵守して運営している。また、例年同様に5月には「指定規則」ならびに「指導要領」に適否の自己点検を行い、その結果を県の学事振興課へ報告した。</p> <p>2. 学則や教育過程、実習施設の変更等については、学院ならびに学園での手続きを経て、指定期日までに県の学事振興課へ変更等の届を行った。</p> <p>3. 政府統計の一環で「学校基本調査」については、例年同様に5月に大村市へ報告した。</p> <p>4. 専門学校としての質の担保のために実施している「学校自己評価」を実施した。その結果については、例年同様に4月に県の学事振興課へ報告した。</p> <p>5. その他、建物に関する事項等についても、所定の規準にしたがって随時点検ならびに報告を行った。また、備品等の自己点検を定期的に実施した。</p> <p>6. 職業実践専門課程の義務である「自己評価」を実施し、学校評価委員会の評価を受けた後、ホームページ上で情報公開を行った。</p>	<p>特になし。（今まで同様に法令等を遵守して円滑な学院運営に努めたい。）</p>	

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ■関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか ■学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか ■セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか ■教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか ■教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか 	4	<p>専修学校設置基準および養成施設指定規則等の関係法令にもとづき、就業規則はじめ学院組織運営規程等を整備し、適正な運営がなされている。各種規則については職員へ周知するとともに、学生に対してはオリエンテーション等で規則遵守を周知している。</p> <p>相談窓口について、学生は学生相談室、教職員向けに安全衛生委員会を設置している。</p> <p>ハラスメントマニュアル作成に取り組んだ。</p>	<p>PT・OT 養成施設指定規則改正（2020年度入学から適用）にむけ取組み始めた。引き続き計画的に実行していく。</p> <p>ハラスメントマニュアル等新たに整備した規則等の周知を行う。</p>	整備された規則の適切な運用を図る。	<p>認可・届出書類</p> <p>就業規則</p> <p>組織運営規程</p> <p>学則</p> <p>オリエンテーション資料</p> <p>研修計画</p> <p>学生相談室日誌</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
専修学校設置基準および養成施設指定規則等の関係法令にもとづき、就業規則はじめ学院組織運営規程等を整備し、適正な運営がなされている。	特になし。

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	井戸 佳子
--------	------------	-------	-------

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input checked="" type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input checked="" type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人向陽学園就業規則(平成29年4月)「別紙2 情報管理に関する責務」において、方針・規定が定められている。現在、学園本部にて、同規定の内規を作成中。 ・今年度、新たに学園本部にて電子メールの利用ガイドラインを作成し、全職員に通達済みである(平成30年4月23日)。 ・学生に対しては個人情報保護法に関する啓発を行い、実習前や卒業(休学・退学など学院を離れる際など)時に誓約書を提出させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術(IT)は、「利便性」と「危険性」を併せ持つツールであると認識し、適宜、柔軟性を持ちながら対応していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術(IT)の状況について、管理者は常に注視し、利用者(学生・教職員)へ啓発・教育していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人向陽学園就業規則 ・電子メールの利用ガイドライン ・臨床実習指導要綱 ・個人情報保護に関する誓約書
中項目総括				特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)		
概ね良好な状態で、取り組んでいる。						

最終更新日付	平成31年3月11日	記載責任者	中尾 夕子
--------	------------	-------	-------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input checked="" type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input checked="" type="checkbox"/> 実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input checked="" type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	4	職業専門実践課程設置委員会にて自己評価を実施している。	特になし	特になし	学院ホームページ
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input checked="" type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	評価結果をホームページに掲載している。	特になし	特になし	学院ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input checked="" type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input checked="" type="checkbox"/> 実施のための組織体制を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input checked="" type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	4	職業専門実践課程設置委員会の組織体制の整備及び自己評価を実施している。	特になし	特になし	学院ホームページ
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input checked="" type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に学内アンケートについて県へ報告をおこなう。 ・学校自己評価はホームページに掲載した。 	特になし	特になし	学院ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業実践専門課程設置委員会の組織体制を整え、学校自己評価を実施し、ホームページに掲載している。平成31年3月に職業実践専門課程が認可された。	

最終更新日付	平成31年3月30日	記載責任者	藤田 明子
--------	------------	-------	-------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input checked="" type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか	4	ホームページ上で情報公開している。	特になし	特になし	学院ホームページ 長崎県総務部学事振興課へ提出する学校自己評価

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
前年度から自己評価の情報公開ができています。	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 30 日	記載責任者	藤田 明子
--------	------------------	-------	-------

基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1. 今年度も引き続き、学校の教育資源（人的、物理的）を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に行っている。</p> <p>（1）大村市介護予防事業や長崎県地域リハビリテーション活動等に講師を派遣している。</p> <p>（2）学校施設（図書館含む）は、関連団体の研修会や会議の会場として開放している。また、図書館は卒業生も自由に利用できる体制となっており、資料検索等の卒業教育・研究の場として活用されている。</p> <p>（3）作業療法学科では講演会や市民参加型のイベントを実施し、医療や福祉の関係者はもとより、一般市民も無料で参加できるようにし、啓蒙ならびに交流を図った。</p> <p>2. 高校生の職業教育について高校から依頼された場合は、教員を派遣して（出前講義）職業理解に努めた。また、学院見学の申し出に際しては、依頼されたすべての学校に協力している。</p> <p>3. 学院挙げてボランティア活動を推奨している。学生部がボランティア活動の窓口となり、大村市ボランティアセンターに登録、依頼を受け学生のボランティア活動につなげている。また独自の学生ボランティア活動として発達障害児と家族を対象としたイベントを学校で開催している。</p>	<p>・特になし。（今後も引き続き、学院挙げて取り組みたいと考えている。）</p>	

最終更新日付

平成 31 年 3 月 30 日

記載責任者

本川 哲

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input checked="" type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input checked="" type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input checked="" type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input checked="" type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input checked="" type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input checked="" type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input checked="" type="checkbox"/> 教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修、教育に取り組んでいるか	3	<p>日本理工学研究所の免荷式歩行器の開発にリハビリ機器使用指導者として教員が継続して協力している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用促進については就職支援室にて取り組んでいる。 ・関連団体の研修会等で施設の利用が可能で卒業生は図書館も利用することができる。 ・地域の小学生を対象とした夏休み陶芸体験教室を開催した。 ・高等学校生徒の学校見学会の受け入れや無料の出前講座などへ教員を派遣し、職業指導や進路指導に協力している。(入試広報部) ・大村市の健康推進員の養成講座・介護予防教室に講師を派遣した。 ・科目履修制度を設けている。 ・講義や施設見学、学外実習を通じて障害者の社会的問題に触れる機会がある。 ・大村市のお口の健康フェスティバルに学生を派遣した。 	<p>社会貢献・地域貢献のニーズには学業に支障がない範囲で、個別の案件に対しそれぞれ対応している。内容の充実や活動がより計画的に実施できるよう整えていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会・地域貢献活動について講師の派遣等の実績は少ないが、依頼が増えた場合も対応できる体制づくりが必要。 ・高等学校や地域への周知が依然として不十分と考えられる。 	<p>学院として社会・地域に貢献できる内容を整理しつつ、社会・地域のニーズに対応できる活動を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動や地域事業への参加、各種イベントを通して学院および学院の活動について広める。 	<p>免荷式歩行器の開発ならびに商品化に関する事業計画書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度 高校 学院見学説明会 出前講座実績 ・学生要覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教職員の地域や高校への派遣・協力など社会・地域への貢献に積極的に活動している。今後は中高生のキャリア教育や地域の方の健康増進および、共同研究などに、より一層貢献・参加できるよう、体制を整えていく必要がある。	

最終更新日付	平成 31 年 3 月 11 日	記載責任者	内田智子
--------	------------------	-------	------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input checked="" type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input checked="" type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input checked="" type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input checked="" type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学生部が窓口となり、大村市ボランティアセンターに登録している。又、学生はボランティア保険に加入しており安心してボランティア活動ができる環境を整えている。 ・学生ボランティアグループを中心に地域の発達障害児と家族を対象としたイベントを開催した。 ・活水女子大学看護学部と共同で地域ボランティア活動に参加した。 ・地域から依頼された活動や自主的活動について学生部が把握し報告している。 ・卒業時にボランティア活動に特に貢献した学生に対して表彰している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度は延べ123名の学生がボランティア活動に参加したが積極的に参加する学生と消極的な学生とに差がみられた。 ・ボランティア活動について学院内外向けに報告する機会を設けていない ・学校行事及び学業の都合などにより依頼を受けた全てに参加するとは困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学生の負担とならない範囲でボランティア活動の参加を推奨する。 ・学内掲示や保護者通信、ホームページなどを通じて学院内外へ活動状況を伝え、ボランティア活動について啓蒙を行う。 ・ボランティア活動に積極的に参加できる体制をつくり、参加する学生を増やす。 ・自主的イベントの開催など活動しやすい環境を整えるため、活動費の拠出や指導・支援を引き続き行う。 	

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
<p>学院として積極席にボランティア活動を奨励し取り組むことができている。学生部が窓口になりボランティアの依頼や参加学生の集約、申込み、活動実績の集計など、一連の流れができている。</p> <p>より多くの学生がボランティア活動に参加できるよう引き続き、表彰や啓蒙および支援を行っていく。</p>	

最終更新日付	平成31年3月11日	記載責任者	内田智子
--------	------------	-------	------

4 平成 30 年度重点目標達成についての自己評価

平成 30 年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 教育力の強化</p> <p>(1) 学生の自己学習能力の強化</p> <p>(2) 教員個々の教授力強化</p> <p>2. 学院経営に対する参画強化</p> <p>(1) [学生募集] 入学者 120 名以上の確保</p> <p>(2) [国家試験合格率] 全学科 95%以上</p> <p>(3) [就職率] 希望就職率 100%</p> <p>3. 就労環境の改善・向上</p> <p>(1) 健全かつ生産性のある就労環境づくり</p>	<p>・使用教材のツールとして「向陽学園閲覧システム」の利用は減ってきている。しかし、「スマホ対応の国家試験対策システム」の利用は増えてきている。自己学習の教材ツールとして学生にも認知され、また模擬試験の実施等にも有効活用され、実施回数も増えてきている。</p> <p>・補習や学習会等の実施による基礎学力の底上げや学習の習慣化により、また学科会議や学科長会による学生状況確認等で進級率の向上はもとより中途退学者を減らすことができた。</p> <p>・「職業実践専門課程」申請に伴い、PDCA サイクルに基づく「自己評価」において工夫改善がみられた。また、今年度も PT 学科教員 1 名が「キャリアサポート養成講座」を受講し、全学的なキャリア教育導入にまた一歩近づいた。</p> <p>・FD 委員会にて教員研修会が予定されていたが、年度内に実施することはできなかった。</p> <p>・入学者 117 名で目標を上回ることができなかった。二部は目標数の確保が難しかった。</p> <p>・卒業した最終学年(新卒者)の国家試験合格率は、PT 一部 70.3%,PT 二部 72.2%,OT 80.8%, ST 87.5%で全学科 目標合格率に達しなかった。</p> <p>・就職説明会の実施や同窓生への呼びかけ、臨床実習施設への働きかけ等により、学生の希望が多い県内や佐賀県からの求人が増加した。3 月末で 71 名の就職が決定した。</p> <p>・月毎に「部署別勤務一覧」と「時間外振替簿」の確認を管理職で行い、向陽学園の就業規則に準じて勤怠管理の把握に努めた。概ね良好に管理できた。</p>	<p>・教育者としての姿勢や教授方法については、年間スケジュールとして教員研修を実施したい。</p> <p>・二部の入学者確保にむけた取り組みを強化したい。</p> <p>・更に国家試験対策委員会主導のもと、試験の難易度設定等を徹底し、学生の成績把握の精度を高めたい。また、それに伴う個別指導等を強化したい。</p>

